

熱帯医学と看護・NGO「司会のことば」

石川 信克<sup>1</sup> 森口 育子<sup>2</sup>

財団法人 結核予防会 結核研究所<sup>1</sup> 兵庫県立大学 看護学部<sup>2</sup>

このセッションでは、従来の生物学的研究を主とした熱帯医学が取り扱ってこなかった課題の内、特に熱帯医学・熱帯保健の現場での実践的課題である看護（熱帯看護）、活動の担い手であるNGOという視点で議論を深めてみたい。演者は全て、熱帯地域で深い経験を持ち研究者・教育者としても第一線で活躍されている看護師を選び、各人の視点から自由な発題をお願いした。司会者の一人でもある森口氏は、インドネシアにおける地域保健活動について、樋口氏はスリランカの伝統医学（氏の博士論文の課題）について、Jintana野内氏は、タイ国での結核・エイズ患者への活動を基に社会・行動科学の意義について、徳永氏は、アフリカにおけるNGOでの実践活動について報告して頂く。図らずも、狭義の看護を超えた、熱帯地域の健康問題にを扱う研究や学問のあり方に迫るテーマが出されている。ここでの議論が、フロアからの参加も含め、これからの熱帯医学会の視野を広める挑戦的作業となることを期待する。